

## 信里小学校150周年に想う

信里地域委員会 島田賢一



私が、信里小学校で過ごしたのは、入学した昭和39年から卒業までの昭和45年です。卒業時の同級生は33名でした。当時の信里小学校は、中村校長先生を先頭に学校をあげて習字がとて盛んでした。特に5、6年生になると、県展に作品を出し入選することが目標でした。学校の中には、大変習字が上手な人がいて、金賞や銀賞を頂いて、朝の全校集会で校長先生から表彰される人もいて、とても羨ましく思ったものでした。

私は、5年生のときに県展に入選できなくて、大変悔しい思いをしたことが、今でも記憶に残っています。そのため6年生で何とか初めて入選した時には飛び上がって喜んだ記憶があります。後にも先にも習字で表彰されたのはこれ1回だけです。私が通っていた頃は、校舎も体育館も木造でした。

上級生になって2階に行くと窓から見える景色が違ったのを覚えています。廊下の雑巾がけでは、今では考えられませんが、手にトゲが刺さることは日常茶飯事でした。廊下をほうきで掃いても掃いても床の継ぎ目からゴミが出てきたのを覚えています。

放課後は、自宅が青池で家が近かったせいで、学校が終わると一目散に家に帰りランドセルを置いて、学校のグラウンドに戻って野球に夢中になっていました。あるときには、遠くの地区の下校と一緒に歩いていき、秋には山に入ってアケビを取って食べたり、アケビの弦でターザンのまねごとをしたり、あるときは桑畑に入って桑グミを食べて口を紫色にしていました。今では、希少生物のシナイモツゴ（通称ぼん）も、当時ほどこのため池にも沢山生息しており、低学年の頃は一緒に釣りをしていた高学年の先輩に「ぼん」が釣れると、先輩から「ぼん」なんかを釣っているようでは、まだまだ子供だな」とからかわれたものです。私が信里小学校で過ごした時と今も変わらないのは、校庭から見える鹿島槍と北アルプスの山並みです。いつまでも信里小学校があり続けて欲しいと思います。

信里小学校創立150周年記念作品への想い  
スノードロップ 桜井 美奈子

信里小学校150周年の記念すべき年に、私達のグループ（読み聞かせの会：スノードロップ）でも記念になるようなことをしたいと思い、メンバー同士の話し合いの中で「今の信里を残そう」をテーマに薄紙を使用した風景画を制作することが決まりました。

作成方法は、まず原画を作成し、作成した原画の上に薄紙を丸めて乾かしたものを張り付けます。絵具ではなく、薄紙を張り付けることにより立体的な作品となります。

信里小学校を中心に「信里賛歌」♪に出てくる「リンゴ、アルプス～茶臼山～♪そよ風にゆれる海のような稲」をイメージした原画の作成を信里小学校の児童の母親に依頼しました。原画が完成した後、次は薄紙を張り付ける作業です。まず、お花紙を水につけて丸めて乾かします。小さい丸は、1cm四方、大きい丸は30cm四方くらいで皆さん家に持ち

帰り、手を真っ黒にしながら数えきれない程、作ってくれました。次は色、大きさなどを考えながらポンドで貼る作業です。細かな所はピンセットや竹串を使いました。作品が出来上がってくると立体感が出てきて楽しみながら、この先もこの風景がずっと続くようお願いしながら製作しました。2024年11月16日に開催された式典は、大成功に終わり、皆さんの心に刻まれたと思います。

## 〈製作・協力〉

青木 緑  
伊東 由香里  
内山 みゆき  
北澤 英子  
小島 美智代  
小山 和子  
酒井 真美  
星野 真紀  
山下 博巳  
信里小 銭谷校長先生・児童の皆さん



## 大阪から移住しての初めての運動会

河田洋一

「150周年だって」

少し驚いた娘の言葉に遠い記憶がよみがえった。私が通っていた小学校時代に「ここは100周年をこえているんだよ」と聞かされて驚いた反応と似ていたように感じたからだ。同じ頃に設立された全国の小学校では実は同じような年数に達しているのであろう。

そんな中で娘が通う信里小学校で運動会が開かれた。事前に配布されたプログラムには生徒だけでなく保護者参加による競技や来年入学予定の子ども達の参加も含まれていた。小学校全体の生徒数が30人であることを考えれば無理もないことである。この数は実は以前通っていた小学校の1クラスの人数よりも少ない数だ。

転校前の小学校についてふれると生徒数630人がリレー、障害物競争、ダンスに挑むことになる。特に生徒も楽しみであるダンスには力を入れていた。2学年ごとに分かれているので210人が、1つになって舞い踊るダンスは圧巻である。去年はエイサーと河内音頭。流行歌にあわせて一心不乱に踊る。家でも学校で習った振り付けを楽しげに披露していた。おそらく日本でも最先端の運動会といえるのではないか。ここまでの運動会を見てきたのに何故だろう信里小学校の運動会がつまらなかったという気がしない。むしろさまざまなプログラムが印象深く残っている。移住してきてその土地を悪く思いたくない気持ちがそうさせるのか。しばらく考えてそうではないことに気づいた。



この自然にあふれた山里で行われる運動会には他にはないものがあることに。この地で行われる運動会はまさに日本の原風景であること。自然の中で子ども達が野山をかけまわるこの情景にこそ今日ではあまり見られない日本の、日本人の昔ながらの姿のように思う。人はそれをノスタルジーと呼ぶかもしれない。少なくとも私は小さい頃このような経験をした覚えがある。一心不乱に野山をかけまわり遊んだ記憶が。

良い経験をさせてくれた経験者の方々に深くお礼を述べたいと思う。このような催しが長く続いてくれることを願わずにはいられない。



# のぶさと祭り

のぶさと祭りが、10月20日（日）に開催されました。同日は前日の真夏日といわれた天気と違って寒い日になってしまいましたが、大勢の皆様に参加していただきました。

## 〈さくらクラブ〉

おばちゃん達の案山子さんがお出迎え人と間違っ  
て挨拶してしまいました「お早うございます！」



## 〈篠ノ井高校書道部〉

「書道パフォーマンス」、150周年記念の年と  
言うことで、北アルプスの山々の絵と共に信里  
讃歌の歌詞を取り入れられ、力強い筆遣いで素  
敵な作品が出来上がりました。



## 〈ぼんすけ育成会〉

ぼんすけ（シナイモツ  
ゴ）育成会の皆さん、長野  
県内外のサポーターの皆さん  
による、溜池のかい堀り、  
ザリガニの駆除などの保全  
活動の様子が紹介されまし  
た。

また、信里小学校3.4年生  
の総合的な学習の時間につ  
いての発表がありました。  
シナイモツゴ学習、りんご  
学習、トンボ学習について  
の発表を観客の皆さんが興  
味深く聞いていました。



## 〈信里子どもプラザ〉

子ども達の元気で可愛らしい観客を巻き込んだ  
ダンスで沢山の笑顔の花が咲きました。



## 「信里小学校創立150周年、ぼんすけ育成会」 とのコラボレーション企画紙芝居をのぶさと祭り で発表しました そらまめの会 青木 緑

10月20日天気も上々、中野繭先生と3、4  
年の児童の絶滅危惧種の「シナイモツゴ」の研究  
発表後、そらまめの会制作の紙芝居を上演しまし  
た。ぼんすけ育成会の皆様、そらまめの会の会員  
との数か月の会議を重ね、約10か月余りの時を  
重ねて完成しました。

特に絵画担当の小池とよ子さんの何回も何回も  
試行錯誤して描き直す姿と情熱には圧倒されまし  
た。島田利男さんの脚本に会員達でセリフをつけ、  
昔の子ども達の様子を表現するように工夫したり  
で、信里小とぼんすけの長い絆を感じてもらえる  
作品にしたいとがんばりました。音響には篠ノ井  
有線放送様のご協力もいただきました。

会員は何度も練習を重ね、発表に至りました。  
これまで地域ごとの紙芝居も10作品になりました。  
お茶のみサロンや個人でもご要望あればかけて  
いきますので是非ご連絡ください。

## 〈そらまめの会〉

そらまめの会制作の紙芝居「ぼんすけが教えてく  
れたこと」が上映されました。優しい語りと暖かな  
絵の世界観に子供も大人も心地よいひと時を過ごし  
ました。



## 信里の防災について 長野市消防団第三方面隊副隊長 小林勇二

日頃より地域の皆様方には篠ノ井第五分団を中心に、篠ノ井、信更、大岡全分団の消防団活動にご理解ご協力頂き誠にありがとうございます。信里の防災について私が読んだ本からいくつか書かせていただきます。

そもそも、「防災」って何だろう？

「防災」には大きく3つの考え方があります。まず、できるだけ自然災害による被害を出さないようにするという「**災害予防**」の考え方です。身近な例で言えば、耐震補強や防災教育、訓練などです。

次に、自然災害が起きてしまった、もしくは起きそうな場合に、その被害をなるべく小さくするという「**応急対策**」の考え方です。応急手当や初期消防、大雨の時などの各種警報や避難所運営などがその一例です。

そして、災害による被害から立ち直るという「**災害復旧**」の考え方です。被害を受けてしまった家や建物を直したり、被災された

方々が新しい生活へ踏み出したりしていくための様々な手続きや支援などです。

これらの考え方は、「防災対策基本法」という、日本の防災対策全般に関わる法律で示されている基本的な概念と言えます。

上記はあくまで法律、制度上の概念です。「正しい」ののですが「分かりにくい」とも言えます。私はもっとシンプルに考えていて、「防災とは自分が自然災害から守りたい何かのためにとるあらゆる行動の事」だと考えます。

信里地域の皆様、疑わしい時は行動してください。判断に迷った時も、まずは行動するという事です。迷っていても事態は変わりませんし、むしろ悪化する可能性が高いでしょう。例えば、大雨や地震および避難勧告が出た時、避難するかしないかなど「行動するかしないか」で迷ったらすぐ行動する、つまり避難すべきです。避難したのに何も起きなかった、それで良いじゃないですか。避難しとけば良かったと思うより。最悪事態を想定して行動して下さい。

### 地震時の行動

## 地震だ！ まず身の安全

- ・揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
  - ・丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。
- 【高層階（概ね10階以上）での注意点】
- ・高層階では、揺れが数分続くことがある。
  - ・大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。



# 地震

## その時10のポイント

### 地震直後の行動

#### 落ちついて火の元確認 初期消火

- ・火を使っている時は揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- ・出火した時は、落ちついて消火する。



#### あわてた行動 けがのもと

- ・屋内で転倒・落下した家具類や ガラスの破片などに注意する。
- ・瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



#### 窓や戸を開け 出口を確保

揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。



#### 門や塀には近寄らない

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



ふんわり ぶむぶむ  
| 防災キャラクター

### 地震後の行動

#### 確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

わが家の安全を確認後、近隣の安否や出火の有無をお互いに確認し合う。



#### 協力し合って 消火・救出・応急救護

- ・近隣で火災を発見した場合は、街頭消火器などにより、協力し合って消火を行い延焼を防ぐ。
- ・倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



#### 正しい情報 確かな行動

行政、放送局、鉄道会社などから発信される正しい情報を得る。



#### 避難の前に 安全確認 電気・ガス

避難が必要な時には、復電時の電気機器のショートなど、通電火災が発生する可能性やガス漏れの発生を防ぐため、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めてから避難する。



#### 火災や津波 確かな避難

- ・地域に大規模な火災の危険がせまらば、身の危険を感じたら声を掛け合い、一時集合同所や避難場所に避難する。
- ・沿岸部や川沿いでは、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。



## 第7回 小山清茂記念展示室開設 メモリアルコンサート

### 〈信里小5・6年生〉

子ども達の澄んだ歌声と、一生懸命歌う姿に感銘を受けました



### 〈小山清茂記念信里混声合唱団〉

素晴らしい歌声が会場内に響きわたり皆さんウツトリ



### 〈オーケストラ・ソノーレ長野〉

小山清茂先生の楽曲をユーモアをふまえ楽しく聞かせて頂きました。生演奏を聞く機会は、中々無いので良い経験ができました。



地域の皆様の作品が数多く展示されました



最後に、参加者全員で信濃の国を合唱し体育館に響き渡り「のぶさと祭り」を終えました。来年も地域の皆さんと盛り上げていきましょう。

## 頑張ったよ！信里マラソン

西澤 浩樹

10月4日に有旅大池で行われた信里小学校のマラソン大会に、今年1年生として入学した娘も初参加しました。

入学してから、自然豊かな信里小学校で毎日のように走り回り、友達と一緒にマラソン大会に向けて練習をしていました。

娘は今まで長距離を走ったことがなかったので、親としては、怪我をしないか、本番で走り切れるかと心配をしていましたが、親の心配をよそに娘は、帰宅してから『今日はグラウンドを10周走った』とか『タイムが10秒縮んだ』と嬉しそうに話していました。

娘の話を聞き、親も一緒に走る練習を始めたのですが、娘の早いペースに、驚きと同時に成長を感じました。

本番当日の朝、娘はとても緊張して登校しましたが、ピストルの音が鳴り走り始めると、

引き締まった表情で一気に駆けて行き、ゴールテープを切る際には、走り切った！とスッキリした顔をしていました。

つい心配してしまいますが、子は思ったよりもずっと成長していて自分で頑張れる力を付けていると感じられたマラソン大会でした。

最後に、マラソン大会の開催にあたり、学校の先生を初め、地域の皆様方におかれましては、子供達のためにご尽力をいただきありがとうございました。



## 犬石地区 長野市無形文化財「虫送り」

犬石地区には長野市無形文化財に指定されている「虫送り」という行事があります。この行事は江戸時代から続けられているもので、農作物に害をもたらす害虫を退治し、五穀豊穡を願って毎年7月31日に行われてきました。



昔は多くの地区で行われていたと思われるこの行事も、現在長野市内で行われているのは篠ノ井横田地区と犬石地区だけになっています。

今年度は、地区住民のほか信里小学校の児童・保護者の皆さん・先生方も参加していただき、数年ぶりに大変にぎやかな虫送りとなりました。

虫送りの神輿は、麦わらを束ね高さ1m前後、直径60cm程の円筒形を作り、担ぐための青竹を2本通すのが基本の形となります。神輿の形や大きさ、飾りつけなどに決まりはなく、はさみで麦わらの形を整え、草花などをつけるなど工夫を凝らします。

住民の方に話を聞いたところ、数十年前は子

供たちが虫を捕まえ実際に神輿の中に入れて込んだそうです。また、作った神輿を担いで地区内を回りますが、以前はすっかり日が落ちた午後7時半から始められたそうで、見慣れてよく知った家々の風景が松明の灯りに照らし出されると、何か別世界を歩いている様な不思議な感じがしたとの事でした。

今年も神輿が完成した後、「なあ～のむしおくれ（菜の虫送れ）」と大きな声で唱えながら地区内を回りました。地区外れの虫送り場に着くと神輿に火が着けられ、麦わらのパチパチ燃える音と共に大きな炎が上がり無事行事が終了しました。

昨今は麦作する家が地区内にいないため、麦わらの入手が困難となり、地区外につてのある方のご厚意でなんとか麦わらを調達している状態です。

また、主役である子供の減少もあり、大人の参加も不可欠な状況で、今後の行事の在り方については、状況に合わせた柔軟な対応が必要と感じました。

